

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL http://jbwf.jp

沙羅の樹

Saranoki

No. 1

2014年夏号
7月10日発行

平成25年度の議案資料に基づき事務局より詳細な事業報告があり、なかでも特筆すべきことは、あおぞら奨学基金支援の高校生5名のうち2名が26年3月に無事卒業できたこと、また60回記念大会で連盟の60年の

【議案第1号】
平成25年度決算報告書承認の件
去る5月7日の監査会、13日の第4回理事会を経て、6月4日(水)午後1時から東京八王子市、高野山真言宗金剛院様を会場に、第2回百合子理事の司会ではじめに合掌。続いて末廣久美理事長が挨拶。事務局より定款第17条に基づき総会成立の報告があり、定款第15条により議長に篠田節子姉が、また第18条2項により議事録署名人には長尾節子姉、安井豊子姉がそれぞれ選任されました。

第2回総会のご報告

去る5月7日の監査会、13日の第4回理事会を経て、6月4日(水)午後1時から東京八王子市、高野山真言宗金剛院様を会場に、第2回百合子理事の司会ではじめに合掌。続いて末廣久美理事長が挨拶。事務局より定款第17条に基づき総会成立の報告があり、定款第15条により議長に篠田節子姉が、また第18条2項により議事録署名人には長尾節子姉、安井豊子姉がそれぞれ選任されました。



【報告事項】
《第1号》平成25年度事業計画並びに予算の件
平成26年5月13日に開催された第4回理事会で承認された第3回理事会で、従来の社会福祉活動をより充実させ、今後の新しい取り組み、新たな活動計画と予算が提案され承認されたことが報告されました。

【報告事項】
《第2号》平成26年度事業計画並びに予算の件
平成26年3月4日に開催された第3回理事会で、従来の社会福祉活動をより充実させ、今後の新しい取り組み、新たな活動計画と予算が提案され承認されたことが報告されました。

【報告事項】
《第3号》その他の報告事項
長年連盟のためにご尽力くださいました林恵智子前事務局長が平成26年3月31日をもって退職されること

【報告事項】
《第3号》その他の報告事項
長年連盟のためにご尽力くださいました。また総会後は、院主様自らのご案内で天皇陵、「武蔵野御陵」(大正天皇・皇后、昭和天皇・皇后)をお参りいたしました。

合掌
— 松井記 —

私たちの活動報告

マナー講座



天王寺書院

全日本仏教婦人連盟では日本マナーマイスター学会NPO法人伝統和文化マナーマイスター協会と協力し「母娘で習得! マナー教室」を開催しております。

目的

青少年のマナー・道徳の向上、核家族化により家庭では伝えきれない事が多い礼儀作法(マナー・エチケット)を親子一緒に学ぶ機会の提供

内容

*挨拶・お辞儀の仕方を学びましょう
*丁寧な言葉使い
*食事の仕方 お箸の使い方
*お片づけなど

お座敷に正座をし、幼稚園とはまたひと味違ったほど良い緊張感の中、真剣な表情で講座を受ける親子の姿が印象的でした。

随時参加者を募集しています!

文化講座日程

- 第84回
【日時】 9月10日(水) 午後2時 天王寺
【演題】 よろこびと 感謝と うやまいの心
【講師】 生駒基達師(法相宗大本山薬師寺執事)
- 第85回
【日時】 10月15日(水) 午後2時 天王寺
【内容】 写経会
- 第86回
【日時】 11月5日(水)
【内容】 満願寺参詣(千葉県銚子市)

4月

- 1日 「全佛婦」春季号119号発行
3日 第1回マナー講座(天王寺)
4日 第26回花まつり出席(池袋サンシャイン)
7日 第1回常務理事会(天王寺)
8日 京都花まつり出席(ANAクラウンプラザホテル)
16日 第1回役員会(天王寺)
第81回文化講座「こころを聴く—金田諦應」
18日 総会打合せ(八王子)
21日 マナーマイスターとの打合せ(天王寺)

5月

- 7日 監査会(事務局)
第2回常務理事会(天王寺)
12日 古寺めぐり打合せ(銚子)
(公財)WCRP 女性委員会出席(中野・普門館)
16日 打合せ(京都)
21日 第2回役員会(天王寺)
第82回文化講座「法華経について—多田孝文」
23日 世界連邦日本佛教徒協議会理事役員総会出席
(グランドプリンスホテル高輪)
26日 正力松太郎賞授賞式出席(グランドホテル)
27日 (公財)国際仏教興隆協会第6回理事会出席
(増上寺会館)

6月

- 1日 第2回マナー講座(天王寺)
4日 第2回総会(高野山真言宗金剛院会館)
17日 (公財)国際仏教興隆協会第5回評議員会出席
(増上寺会館)
18日 第5回東日本仮設住宅訪問(石巻)《第83回文化講座》
25日 東京都仏教連合会研修会・懇親会出席
(浅草ビューホテル)
30日 (公財)日本宗教連盟定時評議員会出席(神社本庁)

《第61回 全日本仏教婦人連盟大会》

【日時】 10月21日(火) 11時
【会場】 東京會館本館11階「ゴールドルーム」
東京都千代田区丸の内3-2-1
TEL 03-3215-2111

《インド日本寺記念法要の旅》

【日程】 11月18日~25日(8日間)

《事務所FAX番号変更のお知らせ》
03-6434-0184に変更しました

東日本 仮設住宅訪問 (石巻)



去る6月18日、東日本大震災から3年3か月、東伏見会長をはじめとする12名が、全国青少年教化協議会との共催事業「あおぞら奨学基金」で支援している高校生の学ぶ、石巻市立女子高校や小竹浜仮設住宅の集会所を訪問しました。

「あおぞら奨学基金」は、行政や大きな支援団体の支援条件を満たしていないため、セーフティーネットからもれてしまった被災高校生たちを支援する基金です。

絵手紙に挑戦!



まずは、季節の果物や野菜を選びます。

選んだものをよく見ながら、葉書や白地の団扇に絵を描きます。

何にしようかな...



描けたら、絵に色を塗ったり、余白に文字を書いたりします。



あっという間に時間が過ぎていきます。

完成!



うちに、驚くほど素敵な作品が出来上がりました。お菓子とお抹茶でしばし歓談した後、小竹浜音頭の盆踊りを教えてもらいながら一緒に踊ったり、昔懐かしい歌を大きな声で歌って、2時間ほどがあっという間に過ぎていきました。



皆さんとの交流を大切に、深い信頼関係を築き上げていきたいと思いました。

翌日は石巻の寺院の中で被害も大きく、お檀家も多くの方々が犠牲となられてしまった浄土宗・西光寺さまにお参りをしました。ご老僧ご夫妻に当時の被災状況、また現在修復に日々邁進されご苦労されている様子、また被災された方々や残された方々の癒えることのない想いをお聞きし、ただただ哀惜の念に言葉を失うばかりでした。突然の訪問にも穏やかにそして静

かに語られるご夫妻に仏さまのお姿が重なりました。最後に、今回の訪問に際してご案内、ご教示をいただいた全国青少年教化協議会の主幹の神仁(じんひとし)師、中里さんご夫妻、そして何より私たちと大切な時間をともに過ごして下さった小竹浜地区の皆さまに心から感謝申し上げます。

— 山口記 —

石巻市立女子高校では、担当の先生から、被災地の状況は復興とは程遠く、高校生を取り巻いている家庭環境、経済環境は益々悪化し、さらに支援を必要としているにも拘らず、多数の支援団体等が新規募集を打ち切る方向にあるというこの事実を多くの方々知ってもらいたいという切なる訴えをお聞きしました。

社会の記憶、意識そして

関心は歳月を経るにつれて薄れていつています。一方被災地では、先が見えず未来への不安に陥っている高校生たちの多くがまだまだ



多様な支援を必要としています。あらためて今後も援助を継続していきたいと考えました。



次に向かった「がんばろう石巻」の慰霊碑は、小学生たちを含む犠牲者があまりにも多く、その痛ましさに、生存できた住民によつて自然発生的にできた慰霊碑です。一面はまだ野原がひろがっており、風にはためく多数の鯉のぼりと絶やされたことのない生花の束に、失われてしまった多くの尊い命を思い、ただそのご冥福を祈るのみです。法要を行ない、慰霊碑を後にしました。

次に向かった「がんばろう石巻」の慰霊碑は、小学生たちを含む犠牲者があまりにも多く、その痛ましさに、生存できた住民によつて自然発生的にできた慰霊碑です。一面はまだ野原がひろがっており、風にはためく多数の鯉のぼりと絶やされたことのない生花の束に、失われてしまった多くの尊い命を思い、ただそのご冥福を祈るのみです。法要を行ない、慰霊碑を後にしました。



次の慰問先の仮設住宅がある小竹浜は、リアス式の海岸線が美しい牡鹿半島のつけ根あたりにあります。一昨年の仮設訪問では、抹茶と生け花を通して交流をはかり、帰る際にやっと心が開かれました。そして名残惜しく再会を固く約束しました。今回はそれを果たすための2度目の訪問で、絵手紙や盆踊りを地区の区長さんや十数名の方々と一緒に楽しみました。

石巻市立女子 高等学校でのお話

経済環境

● 支援資格は世帯年収を家族人数で割った一人当たりの年収が100万円以下であり、現在30万円の家庭もある。

● 親の会社が流されるなどでアルバイト申請している学生の各学年率は半分。

● 親の仕事については復興関係の仕事など求人率は悪くないが、中年以降や女性には無理があり、また仮設住宅のため魚の加工場等への通勤が難しい。

● 女性が水商売で働くことが多いため、援助金等も遊興費に回る率が高い。

家庭環境

● 震災後、離婚率が非常に高くなっている。原因は男性の家庭内暴力や貧困。

● グリーフケアの回復のプロセスの中で鎮静に向かっている暴力がある。プロセスとして受け止められる場合もあるが、ただ単に野性化している場合もある。

● 学生の半分が母子家庭になっている。子供が帰ってきた時に母親が家にいない。

● 家庭問題について女生徒は悩みを表に出せず、しかも攻撃性がないので内に向かい、鬱になりやすい。心身の不調を訴えたり学校を辞めてしまう。

精神状態

● 被災の辛い現実を体験しているため、霊が取り憑くなど、霊障としてしまいがちで、霊感商法も含め新興宗教などにつけ入れられやすい。

● スクールカウンセラーと地域の病院で生徒達の精神状態を把握し、サポートをしているが、宗教者によるスピリチュアルケアが今後大切になってくる。

● 臨床宗教者の育成を東北大などでやっているがなかなか日本の環境の中では難しい。私たち連盟も含めて仏教界の今後の課題。

最後に、学校としては以上の現実問題と経済の状態が極めて悪いため治安等も悪化しており、それによって起こる数々の弊害や現実を行政や一般の方々にもっと訴えてほしい、そして支援を継続してほしいということでした。

